

近現代

ジョン・ジョージ◎若々しい騎士

6/8 拍子です。冒頭左手は3つのまとまりが大事です。反復練習をして、6/8 拍子は少し揺れていますので、音がたくさんあってもラシラシがきちんと表現できるように。カッコいい曲で激しくと書かれていますが、タタタとならないように。軽く少しうねるような拍子感で。2小節目のミも雑にならないように。ミに対して3小節目のファがどう出てくるか、ファドラ、ソレシ、ラミドの3つの響きの重なりが平行に移動していくので、バランスをよく聴くように。1人で始まって右手が付いてきます。4小節目のシの倚音は緊張感をもってぶつかりを聴いて。9小節目からは右手がメロディになりますので、バスの動きを大事に。16小節目はソが#ソに変化しますので、緊張感を感じてクレッシェンドで。8分休符の入り方は迎えて入るように。

バステイン◎青い車掌車

左手のまとまりを聴きましょう。面白い半音の動きの特徴を聴いて。2拍目、3拍目に膨らむ感じがあると面白いでしょう。メロディも2拍目が長いので、一緒に持っていくといいでしょう。1拍目だと自然になりすぎますね。5～6小節目、9～10小節目の違いを感じて。11小節目からは右と左のアンサンブルで反応しあい、相手の音に興味を持って聴くように。14小節目で伸びている時の次の方向性を感じて。最後はとても難しいです。ここでリタルダンドしないように。最初のテンポでいい気になり過ぎると大変です。遅すぎず速すぎず、テンポ感を感じましょう。ファの切り方は、素早く蹴って移動するように。硬くならないようによく練習しましょう。

秋 透◎小さな決心

綺麗な曲ですね。音をいたわって欲しいです。心の中から歌が感じられるか。お腹から声が出ているような感じで。弱くても深いタッチが必要です。思い入れのある音で。鍵盤の沈め方、鍵盤と自分の手を一緒に下ろして上がるように。バスの進行をよく聴くように。2拍目のラが綺麗ですね。ラに感動して弾いて欲しいです。2小節目もドドドが並ばないように変化させて。変化を聴かせた後左手にミ(レ) ミミがあるので、よく音を追って聴くように。3小節目が一番低くなるので、この谷の

音をしっかりと、その前がどう変化してくるか、ですね。これが聴けないと平坦な感じになるので注意。3小節目の右手のソも綺麗ですね。4小節目の左手のラも大事に。5小節目の6度のバランスを美しく、小指の方に重心をかけて、5小節目と6小節目の響きの違いをよく聴いて。変化を敏感に感じ取れる耳と心が大事です。9小節目からは左手にメロディでチェロのようです。12小節目4拍目からは一緒に動きに、14小節目にまた違う動きに。15小節目のメロディが17小節目でエコーのように。

轟 千尋◎ママのだいどころ

リズム感が大事です。2拍子だと強弱・強弱で音楽が進んでいきますが、1小節目のファソラにパパパッ! というのが欲しいです。3、4小節目も同じようにならないように。ミミミの弾き方によって次の音楽のつながりが変わってくるので、間を楽しく弾きましょう。9小節目のラシド#ドはテンポ通りすぎず、揺らすわけではないですが、同じ8分音符のキャラクターではないですね。ラシドも1回目は普通のシで、13小節目はbシになるので変化を感じて。16小節目の響きも変わりますね。17小節目の2拍目も「さあ～料理しよう!」というきっかけを。24～25小節目はビックリマークです! 26小節目の休符が緊張感を生みますね。この休符が「何が起こるの?」と緊張感になるので、ここで絶対動かないように。休符も流れる休符もありますし、フリーズする休符もあります。27～28小節目は全音階になっています。最後の響きは遊んで弾くように。どこに向けて弾くのかいろいろ実験してみましょう。

B 級

バロック

テレマン◎ジグ

タイトルが何語で書かれているかで様式がわかります。なのでこの曲はフランスの踊りです。jig (英語) Gigue (仏語) Giga (伊語) です。ジグというのは英語で上下あるいは左右に急に動く事とあります。フランス風の柔らかい踊りではなく、速いわけです。当然アクセントがつきます。ジグは2拍子、3拍子、4拍子と拍子が異なります。この曲は6/8拍子で2拍子です。2拍子のジグはダブルジグと言われます。バロック時代の分母はテンポを表します。なので8よりも16の方が速いです。この曲は左手に付点4分音符があり、これがビートを作ります。テヌートを少し強めに弾かないとジグの拍感が出ません。左手の付点4分音符がしっかりと、ジグの跳躍を出してくれるように、手首から腕にかけての運動、打鍵の速さが必要になります。9小節目からは **f** と **p** とあり、当然二回目は何らかの変化が欲しいです。ここは左手の仕事 (通奏低音) に。右手はメロディなので、左手を積極的に強弱のコントラストをつけて。すると右手は鮮明にジグの生き生きとした感じを保ちながらも、**f** と **p** のコントラストを示すことができます。右手を弱く弾こうとすると打鍵が柔らかくなりクリーミーな感じになります。ジグの跳躍、エネルギーな運動を失わないように。最後は in Tempo で音量も強いまま終わらしましょう。

ショルツ◎ダンスのうた

ブルゲンランド地方は、ウィーンから東に、ハンガリーとの国境にあたります。豊かな、おおらかで自然に恵まれているような歌となっています。ダンスと歌を守ったほうがいいでしょう。右手はメロディアスなラインを上手に作って。フレーズが閉じた時の音は必ず閉じて。音型に従うこと、上行しているのか、下行なのか。音形が下がっている時に膨らまないように。音程も大事です。音程がどのくらい開いているのか、5度を超えると感情が外側に向きます。1小節目のラーファは6度です。あまり遅いとダンスがしにくくなります。三拍子をする時は硬いリズムの三角形なのか、柔らかい丸なのかを考えて。それによってテンポも変わります。

C.Ph.E. バッハ◎ポロネーズ BWV Anh.125

ポロネーズはポーランド風のフランスの踊りです。硬い正三角形を書くように、落ち着いたテンポで。13小節目の左手は跳躍しています。必ず切るように。16小節目もタイの後は切るように。バロックの曲はタイの後は隙間を入れるように。17小節目で保続音がない二声になったので、音量の変化、音が薄く感じられ、右手と左手が解離、リズムも保続音ではなくバウンドしていることを考えて。17小節目の3拍目にタイを使うことによって音価が引き伸ばされるのでハーモニックになります。タイを強調すると和声の変化が見えます。最後のリズムは柔らかくならないように。

クラシック

ケーラー◎魔女小屋の小さな魔女

さまざまなリズムとアーティキュレーションの練習の曲です。スタッカートやアクセントがあります。左手のバランスとハーモニーを感じるために、一度重音にして弾いてみるとわかりやすいです。8小節目2拍目にアクセントをつけて長くしたりしないように。9小節目は **f** で、9～12小節目の右手ミレドシ、左手ドシラソは大きな枠を感じて、リズムの面白さを感じて。いろんな所のアクセントも表現して。19～20小節目はテノールとメロディが対旋律のように。28小節目1拍目もアクセントにならずに。最後は決然と、risolutoで終わらしましょう。

アンドレ◎ソナチネ イ短調 第1楽章

アンドレはドイツの作曲家で、モーツァルトの自筆譜をたくさん購入して出版して大成功した作曲家で「モーツァルト研究の父」と呼ばれています。ただこの曲はモーツァルトの感じは感じられませんが。a moll。左手はレガートでもいいでしょう。2小節目の同音連打しながらの dim. は難しいですが手首の運動を使って、2拍目に向かって少し上げるように。3～4小節目は、2小節目と表情が違うことを生かして。7小節目3拍目のA音は大事に、係留があり、ラシの不協和音をよく聴いてから転調するように。10、11小節目にカノンがありつつ、バスも大事なのでバランスを保って。e moll から C

durに転調しますが、どの辺からC durに聴こえるようにするか、C durに向かってクレッシェンドしていく感じを意識して。22、23小節目もカノンのように。25小節目の両外声を大事に。27小節目のラの跳躍の後には時間が必要でしょう。最後は声部の交換を意識して。

ベートーヴェン◎

ソナチネ ヘ長調 第2楽章(終楽章 ロンド)

左手のアーティキレーションは書かれていませんが、スタッカートでもいいでしょう。二声の関係を味わいながら。2小節目の#ドーファは左手と一緒にレガートしないように。5小節目の6度の跳躍は喜んでる感じを表して。8小節目の左手は難しいので、7小節目と8小節目が切れて考えるように。17小節目からの一つ目のエピソードはC durで、21～24小節目のホルンの進行を大事に。25小節目からは軸になる音(右手ミレドーシ、左手ドーファーソソ)を聴いて。27～28小節目の半音階の指使いは1-3を多用した指使いの方が弾きやすいです。37小節目からのエピソードはd moll。ここも左手は指示がありませんが私はレガートで弾いた覚えがあります。41小節目からは3回あるのでどのように表情を変えるのか。46～48小節目はスラーの後ろの音は切りすぎないように。2つ目の音も丁寧に。53小節目からは左手がメロディですが、ソプラノのラインも一緒に聴きたいですね。57～58小節目は2小節でフレーズが閉じてしまうのでテンポが難しいです。自然なアゴーギクでやりすぎないように。71小節目はad libitum(自由に)と書かれていますが、a tempoに向かって少しテンポを戻していく感じで。rit.をかけるアゴーギクとは別の方向のアゴーギクの方がいいでしょう。最後のカデンツァは**f**と**p**を書いた意味を考えて。

ロマン

リュバルスキー◎優しい歌

レガートの技術とフレー징の歌い方が非常に重要になります。手のひらの筋肉を使い、骨の意識をなくします。求める音の質感と手の状態を一体化させます。なめらかなものを歌う時にコツコツとした体感ではなく、蛇口を捻るように外に少し捻って、手のひらの筋肉を寄せ集めて。少し捻ることによって、手の中心線がどの指にも重さがかかるようになり、指先が鍵盤に近

づくので無駄な雑音が発生しなくなります。音の違いをよく聴いて。8小節目から9小節目に移るときは、音の減衰を聴きながら。9～10小節目は非和音がなく、左手には第7音(D)があります。一つのハーモニーの中の響きを保つ弾き方で。11小節目の同音連打も気をつけて。出だしのバランス、2段目は左手がメロディになるのでバランスが変わります。響きから生徒さんに体感させて下さい。rubatoは大きくは使いませんが、長いフレーズ全体でのアゴーギク、テンポの順次的に少しフレーズの頂点に向かって前に行き、またゆっくりというのは必要です。例えば9小節目から。レ#ファラからソに行くときは少しゆっくりになり、そうすることで長いフレーズの始まりだと伝えることができます。11小節目から前に行き、13小節目の頂点で時間を少し使い、またフレーズが終わっていきます。長いスパンでの揺れ動きを常に意識して。17小節目からはカノンです。19小節目では左手の方が大きいですが、闇雲にではなく、6度をよく聴いて、どのバランスが綺麗な。右手の山と左手の山が違います。レ#ファラ～で始まったのがラ#ファレ～と対応して終わります。

ギロック◎森の妖精

左手と一緒にタタタタタタと捉えてしまいますが、大事なことはそれぞれの声部で別の動きがあって、その合奏ということです。右手に対して、左手は長い音符です。タタではないので、タッチに気をつけて。始めはソドレミ、シドミソの2つの上行でできています。それに合わせて手首を使って。8小節目の1拍目は休符ですが、G7(ソシレファ)の和音が隠れているので、7小節目でレファラだけ弾いてそのままにならないように。8小節目の弾き方は和音の変化を伝えるように。15小節目のミの頂点の音のタッチは、スピードが必要なので、少し指を上げて上からスピードをつけるように。同じテンポの中で弾く場合は、指の動きの量を多くすると、当然スピードが速くなります。キラッとした音を弾きたい時にこの方法を。21小節目(Poco meno mosso)からは少し自由に弾いていいでしょう。22小節目の同音連打はゆっくり聴きながら。左手のラミ(空虚5度)は寂しげな音で。左手に対して、連打の表情を。27小節目は上行しているものをどう弾くか。音が上がっているので膨らむように、というのもできます。ただこ

の場合は、上に上るものに対してカメラと一緒についていく場合です。逆に撮影者は地上から構えて音が上がっていくのを撮影している場合は音はどんどん小さく見えます。つまり上がっていくと離れていくことになるわけです。ここの場合は27小節目の左手に意識があるので、右手のレラドミソは離れていきます。どちらでも構いませんがそのようなイメージを持って弾いてください。

シューマン◎楽しき農夫

非常に楽しい曲です。ディズニーのハイホーを思い出しますね。世界観、声の質は同じです。非常に太い音で、指では弾けないので手を捻るタッチで。これによって指先も下がるので、ぶつけた音が減ります。まっすぐ使ってしまうと重さが乗りにくいので指の動きに頼ることになります。4小節目に4分音符があるのでよく見て。6小節目の左手も気をつけて。9小節目も長い音が8分音符的にならないように、8分音符は8分休符とともに別のリズム感があります。なので内声のリズムにメロディがあってしまわないように。11小節目からは村人がみんなで合唱しています。14小節目の右手の裏拍の面白さを感じて。

近現代

マイカバル◎つかの間の幻 Op.28-8

3/8拍子、Allegro scherzandoなので、速くスピーディーな感じですね。強弱記号が *p*、*pp*、*ppp*、*mp* しかないなので、この違いを意識して弾きましょう。出だしがあまり弱すぎると聴こえないので、音質を大事に。どれだけ弱くても通る音で弾かなければいけないので、指先の意識をはっきり持って弾くように。2小節目のラも強く弾いても瞬間的に掴むように、火花のような音があってもいいでしょう。綺麗になりすぎないように。ピリッとした音がいろんなところに欲しいです。8小節目のラは変化をつけてとても柔らかく。fis mollの響きに対して13小節目からのA durは少し明るく、しかしあくまで *pp* で。大きさを明るくしないように。歌い方や音質で明るさと暗さをつけて。明るい方がスラーが丸みを帯びています。音の方向、色の違いを感じて。17小節目からは4小節かけてクレッシェンドを、下がりながら少し暗く。27小節目あたりからやりすぎではいけません、少しリタルダンドをして全く in Tempo でなくて

もいいでしょう。やっても許される音色で弾けているか、不自然にならぬように。31小節目からは左手の音の移動です。最後の音は上の#ファが無くなるように。上の指を引っ掻くように。ソフトペダルを使ってもいいですが、こもりすぎるピアノもあるので、指先の意識を感じて弾きましょう。

ガルシア◎ダンス

最初のテンポでしまった!とならないように。12小節目の連打が弾けるテンポで。ここだけ遅くならずに in Tempo で弾きましょう。まとまりを意識し、最初の音が抜けてないといけません。手拍子で練習を。Allegretto なので、速すぎないテンポで、遅いなどと思わせないようにキャラクターを作りましょう。19小節目からは内声の半音進行をよく聴いて。27小節目から初めと同じテンポで始めましょう。31小節目からの *pp* は遠くから聞こえてくる響きで。遠くの響きに耳を傾けるように。34小節目はしっかりクレッシェンドで *ff* に。最後は両手とも跳躍しますので、手の感覚と距離感をしっかり練習するように。とにかく速すぎず、面白く弾きましょう。